

林稅

上を積廻し等之様成儀有之時は、山之改方、筏組川下の船積等さまゝの手段有之、奉行人至て功者入る事也、然共是先大にては無之儀故、仕方長き儀に付略之勿論御用木とも伐取たる株壹本づ、極印打伐株と材木員數引合改る事也、

〔地方凡例錄二〕森林之事

付林改方并御林帳仕立方之事

○中
略

一森と云は寺社境内又は居屋敷にも木を植立繁茂いたすを森と云、林と云は山河原野方平地等に木を植立茂りたるを林と唱へ、森は多分寺社免地か屋敷反別之内に籠り有之故、別段年貢等不出古林は公儀御林、地頭林、井根林、百姓林、所に寄品々有、御林并地頭林は百姓方にて下草刈取下草錢とて反當有之、年々相納、尤地頭林には其家々の仕來り、落葉下草は無年貢にて百姓にとらせ、本木は領主用木に遣、家中の諸士家作入用、或は林なき村方百姓家作等之節、願に依て持高に應じとらせる事有り乍去箇様之類は少く、井根林は御用に付諸役人郷廻り等之節、枝葉薪に用ひ、真木は堰川除の普請入用に伐渡事也、此井根林といふも所によりては有ども稀成義也、百姓林無年貢なれども間には林錢納るも百姓林たりとも持主の自由に良材伐遣ふ事ならず、要用にて伐採時は願出、差圖之上伐遣ふ也、又空地に新林仕立、百姓持になれば林永等相應の年貢申付事也、林に不限、百姓四壁或は屋敷前通り、大木の類有之、格別の大木にて、村中は勿論隣村へも知れたる程の木は、御料私領とともに持主自由に伐取事ならず、箇様の木は御代官地頭等にて帳面に記置事也、

〔農政本論中編中〕御林下草錢

此ハ覇府ノ領藩ノ領共ニアル者ニテ、上ノ立林ノ下草ヲ村方ニ於テ刈採ル役永前々ヨリ定納ト成タル小物成ノ内也、然ドモ或ハ其年ノ草生立ノ様子ニ依テ様買トナリ、年々不同ナル處モ